



~13
4352
1



113
4352



新可興記

新可興記

目録

卷一

一巻

上

一 理^己北^ひ乃^の今^{いま}勝^{かつ}貞^{てい}

武吉人^{ぶきじん}と^とさ^さす^す心^{こころ}一^{いつ}言^{ことば}也^{なり}

二 山^{やま}川^{がわ}風^{かぜ}を^をあ^あま^まり^り

武吉^{ぶき}を^を増^まえ^えせ^せう^う信^{しん}じ^じ



Handwritten text in the top right corner, possibly a title or a note, written in a cursive style. The text is partially obscured by a large, dark ink blot.

われ兼小紋乃と下着し一階人そとふし一業
を中せりたをれは何乃何く一そくもた
乃侍ありらぬとされたるしそ業せし何時
何人あもせし金乃たもいそらあし一い
とすしゆもやと強もあし一いふる思ふ及
ど業もあしを侍りしとされたれ何れ何を
涙されし一も水もあは合あり人も多
我乃よとゆゆゆこれ或運乃つれを
由小射候乃移るしむ若ぬ乃せん
大流あれは二腕の形りふ連小出合
りありありそれ人相とゆくと若ぬと

るの肩乃最天細我物乃清明しと地入獨中
しつゆもあつといえんやも方乃元色と人
相乃あ職を償とゆふ乃誠あり我よ何の元
不もそくもあふとやがあり世との入相と
天程れ帯とゆゆと動つ何乃中と侍るゆ
是あらん宅もあは終あ色人相乃聲か多れい
ふのしとも方乃の徳門乃あまのんあし
人の眼も色とゆゆと雨神の作れあんも
ふよそい地とゆゆと元も中し一乃目付あり
眼の作りの色あしとゆゆと胸中に部
あれの瞳もあしとゆゆと心室もあしとゆゆと

とぞらぬいあつとやまき方の悪と掩とて成ま
飛つてお道まんやとらねとせり村骨籠み
魚魂の割つとらり筋一付とくせり侍を面
あつくけよとられとと務回あそりしを理め
河のまぬが六神八割ふちりてせれ後と可
とらぬれとくせりまぬのひらむとあ
け飛とのつぼぬとや忽ち影一團去りあす
よめ一ととと方今情じあめしをさうよな
涙とてせせあやけ侍も役人のまんとあり
まられく羽風情あな鶴乃らあそとと
一弁ふと飛のれ一が今のつたに武士

の所よなるの義とあつとらつとあつと
つとらぬれとくせりまぬのひらむとあ
くふあつと今とつと可夫因とつとあ
の今今今今今今今今今今今今今今今
乃非義とつとつとつとつとつとつとつと
ねまてつとつとつとつとつとつとつと
あつとあつとつとつとつとつとつとつと
かえつとつとつとつとつとつとつとつと
出よつとつとつとつとつとつとつとつと
あつとあつとつとつとつとつとつとつと
くつとつとつとつとつとつとつとつと

二

初之川乃巻掛あり

古代受た人のつらみと親んぶと合
将くしるる義士乃ねむりあり國と
風校よきおに松永宿壺和別伝まの
ありあが筋めしとて流人となり
し小むむし乃侍先祖乃感快し
ひえけおとせとね同武乃南山
と甲しりげ浦中しとるあ
組しおけ案人梅正成が未
依りのちりし流とく子組
嘆けく勝りあはとる山様と
自奉の

白

とわげし小又河川
流へおれちり梅菜を
し小のしと色と案小
つりぬ浦中乃お
人かしとせしれ
弟のしとあし
その物種が
し物し梅りぬ
連愛し
えりし

新

善長
鳥鳥



ういふのしるのわい味もつあへて備く是とせらる
 ども無凍乃人けささるれくを時くもえ
 けいび乃梅病半土のまことありと別ある
 とては厚肉あしり物せ出さるへあふや
 じ清人執我書よ物よんはまの書よ一
 小知遠忠せのあ人をふりかへよそれよ
 決乃中らさく流あは国へよとして
 屋敷くごう流りり何乃後継もまめえ
 小廣圓へお借る家老の物へ一入換目れ三人
 内徳ちう一入殿直情熱よをあ人のり
 きーがのりくまも力乃一ああふは

久美理と云お果つたる追付あり何とも未
く直ちに勤めさせられた程ひも細い右乃云
た筆乃るの程かこのやじやう小たはうし
ゆしと程ゆりうが好とこ念念すのうと
通りは十月さうりさく一人乃流人今二人の
の之世と付き何おまま素のさう一は内積
Pつらうさるに力とほりた程さうとありぬ
友人とんあつた何のおも拙りあく測とあ
根いさび友人もお海はよりあうと程さ
よめさうと程さうお心成はさうり乃る程さ
おさうさうのうさうあうさうは同一さ

二人よりつらうと程さうさう乃るさうれ程さ
さうさう目おさうさうけかつさうさうさう
さう武運乃つたお法さうり人肉程さうれぬ
色程さうさうさうさうさうさうさうさう
さうれ一分さうさうさうさうさうさうさう
あうさうさうさうさうさうさうさうさう
ハ一通さうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
我々素少早織る象素亦速也後る先程氏
威不常故蝶さうさうさうさうさうさう
亦不分的鳴呼倍則先程汗尻さうさう
亦不分的鳴呼倍則先程汗尻さうさう



之冠雅道将死地遠却守而己國をせんとすめ
法家中の事然とくんとす二人と母と居ひぬ
を後にれあを乃りせりい人お墨つくとせ
一不家ありまてこれ代り此意をたれつとせ
うし家とある人たよ捕がみ結よまらさ
とそあつりびにる支方小指つてへし細い今
用世にまて法業とて之おろろりてさ高人え
來い正平小西給かろと一方つに西給のた方よま
乃指とらゆし一毛と代なり又一方つに西給に
あ物と後ろりあ一と意とてさろい
がいかしはるとたて結よらあてさおありと

一つ指つり毛とつとく金剛山乃藤室あか
とつら而乃地侍乃あがし代り捕り連書た
様へ一毛とつら乃目録持あしては二交乃乃
とそとてこの親御後のさあ小太のあまり
たろいに職人あふげはりゆりるれあれさ
とあげさうお今まて法家中おゆり合ひ中
ま代乃乃とあれは通使儀のさくさう結
らるごころざんごもあれ結ひのさうさ
られまのれおさう結つりるああり國をり
らるさつらしたあむさう

馬つたんと

香部

井出梅雨

けん

那波

のり

あひ

三

木末に其く様の終心

古代むく宿人のころは他乃其つあつ時いふれはま
 然るころとふらて我を愛よ信外乃大者國腹の子
 思ふ入りり路のいく法とまは乃官位と軽んせ
 りれ無教へ乃使志思家申廣記といへたも
 此のころとく二人大肉れ事く無殊つてせり
 ともありなむ後かての宿人あふ乃水用のよに
 水見せ乃水宿代らてあふ人兼煮つてまじ
 りひ乃系内首尾く水極有らざるがれ
 るく七糸よ殿乃水宿教ありとく是のころ
 ゆり系乃教主宿少也物宜と物がませま記

下より二つと云て又二またと云つと云て又二下より六

あつた

あつた

相しむる時意山乃木湯さるあり年ぬり大徳
 能くはくと世終乃つれ水極有とほらんく
 とせま宿のよとも物極くく大勢うけつけ極
 とさう一宿とえ一食儀とと宿ふとやゆれ
 かさるあれらりさききんももきぬ色難沖
 名代の何くくは世物とありは合おまはれ因果
 しあさうの切腹乃是極とくまの何とまはる
 と宿家来よあさうまうとPとくぬ園ありまは
 とのくるあまればよの申運のつれとねのひ
 さごめ浦とありて事くあり行なふとありの終
 きに終る極あれいけいさるうつとあつたあつた



母一なる病氣とありたはれははれぬのちと也
 一 病入ぬ病後病屋敷とての事を思ふは
 外乃守徳とてとらうかむと病つきの事
 云ふ家おれの病受あり龍角時節うらうら
 うりよ先病ありとてたうくしうらうと穿
 人洞也うらむとてて度中志りいふ
 まり大もの世れさうとてかりおちのん
 むらうらうとありとて時お屋敷守徳事なり
 通らうらうらうとてさうとてさうとて
 とまづさうとてありまらうとて由自をのあや
 まりありひさうとて由國へさうとて病いさうとて乃





ゆくまゝの心入候る答意とありのめく市宿ま
 らしと心もて出候いしりく親子れ人のい
 ち門小あしひを魚とひ乃物とて綴若の刺
 小指の皮とらりも母の心ゆつとと綴の二るあり
 奥小孫とを取らうと松割と乃焼大指の川
 とあくゆつて東的乃を鳥乃つ道鳴よとあ
 く綴の法陣と人色とつと流らら小び宿
 と出さんととらふ小まや家とせく新を流さる
 流石と出ま乃流家とららとられ小と家かといぬ
 いかりともあがし心かたり綴とてひもと
 怪んと概小をとりと小かめやうとららと

是くもつと親とにひのめく楓の出候は業より
 此のたう一何とく衆の志とてかくいぬ
 を親らうとらあがし心とつとららとらと
 ぬ同果ありまゝとて年と綴のめはふと
 出候乃とらあはあつと小人の命ととりとら
 とらとあがし心とつとらとらとらとらとらと
 とらとて用乃情小宿とつとらとらとらとらと
 とらと小孫とらとらとらとらとらとらとらと
 とらとて人としとて法陣何はとらとらとらと
 とらとて心もつとらとらとらとらとらとらと
 て山乃とらとらとらとらとらとらとらとらと

らびにお果ぬ。まひお深なるめれが。あき乃の統り
由けけあされ。青生をそのふありくの由給ふ
切まう。まの通度お果外ありまひりや。おるよ
が。おふまのたけ。角尾えと。けの所入あ。二人が
あやまり。同罷お極り。二年あま。り乃統。任の
程。色む。り。おかりぬ。二人の内。あれ。何。が。い。大
ぶ。おゆ。り。あり。と。け。志。の。命。と。ん。に。お。例。お
任。と。お。ひ。の。通。り。と。ご。極。り。何。人。統。度。お。行
と。由。助。乃。極。り。波。せ。大。之。由。折。極。り。あ。げ。ら
ま。い。ま。ひ。の。極。老。も。ご。ご。これ。ど。色。松。な。あ。乃
一。通。り。二人。同。一。科。と。建。感。は。る。れ。を。ま。お。由。給

あひく二人命と。な。り。お。ま。れ。お。な。あ。び。ん。あ。れ。が
い。難。の。が。れ。て。極。り。と。す。と。め。と。り。の。た。と。出
ざ。り。と。い。極。り。と。ひ。と。と。ま。上。り。と。り。何。人。の。あ。げ
と。感。ぶ。ま。ひ。二人。お。ゆ。り。され。と。り。ま。い。く。お。ゆ。り。ぬ
い。大。之。先。例。と。め。り。と。助。り。命。と。自。命。の。後
あ。あ。て。か。つ。い。あ。せ。る。や。と。れ。より。い。の。う。ぬ。あ。人
の。御。出。と。ま。ひ。裁。件。口。極。り。あ。ひ。の。ま。ぬ。り。と。り
ひ。乃。ゆ。り。と。色。唾。ひ。あ。り。り。と。ま。ま。あ。り。と。り
と。人。乃。の。と。り。た。い。ま。と。あ。ひ。極。り。お。ゆ。り。極。り。と。り。お。ゆ。り。ぬ
お。り。り。と。り。と。一。ま。い。と。り。幸。ふ。を。用。乃。同。安。お。ゆ。り
と。つ。り。と。り。夫。理。成。と。り。た。形。色。あ。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り

木
下

利ふつりおせばとくも^かの^りの^あ眼^ん小^あわ^りれ
 ぶ^らる^ある^つた^ら。徳^く人^の。難^がき^とう^けて^回去^り
 乃^つ費^ふと^めて^虎。虎^とり^の。何^の
 遊^り。何^ん。今^時の^人も^お怒^り。何^の
 何^の。今^時の^人も^お怒^り。何^の
 ぬ^物。今^時の^人も^お怒^り。何^の
 息^せ。今^時の^人も^お怒^り。何^の
 ゆ^り。今^時の^人も^お怒^り。何^の
 何^の。今^時の^人も^お怒^り。何^の
 色^あ。今^時の^人も^お怒^り。何^の
 せ^の。今^時の^人も^お怒^り。何^の



